

梅一輪一輪ほどの暖かさ。この俳句は江戸時代前期の俳諧師 服部嵐雪の作だと言われています。私の好きな俳句の一つで、この句の解釈は諸説ありますが、一つは春に先駆けて咲く一輪の梅の花は暖かな春の訪れを感じさせてくれる、又もう一つは、厳しい寒さの中で咲く一輪の梅の花は何と生命力の強い花だろうか等が上げられます。子どもの存在も正にこの句と相通じるものが有るのではないのでしょうか！ 厳しい寒さの中でも戸外に出て元気いっぱい遊ぶ子どもの姿は正に生命力の象徴そのものであると言えます。又 無邪気であどけなく、おおらかな子どもの姿は私たちにいつも暖かな春の日差しのような柔らかな心を感じさせてくれます。本当に子どもは掛け替えのない大切な宝物と言えるのではないのでしょうか！ そんな大切にされるべき存在である子どもですが、近年子どもにまつわるいじめや虐待に関する報道が後を絶ちません。宇治市においても児童虐待は年々増加傾向にあります。子どもの権利条約が制定されて随分久しいですが、この条約に現在世界196の国や地域で締結されています。その子どもの権利条約の中に四つの子どもの権利が定められています。1「生きる権利」2「育つ権利」3「守られる権利」4「参加する権利」がありますが、四つの権利はいづれも子どもにとって大変重要な権利ですが、近年中でも「子どもの守られる権利」が極めて希薄になっていることは、大変憂うべき事態だと言えます。折しも今年5月から元号も変わり新しい時代の幕開けとなりますが、子どもが生き生きと暮らせる社会であってほしいものです。

又、当園も今年4月に保育園から幼保連携型認定こども園に移行致します。子どもたちが楽しく過ごせるこども園・保護者の皆様が安心してお預け頂くこども園を目指して職員一同頑張っていければと思っています。何卒温かいご理解・ご協力お願い致します。

園 長